

【学校教育目標】

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、創造力と自主的精神に充ち、地域と国際社会に貢献できる個性豊かで心身ともに健康な人材の育成を目指す。

【重点目標(中・長期的目標)】

「白馬にしかない」学びの創造
 ①地域と連携した全国モデルとなる学校協働運営体制を構築する。
 ②地域資源を最大限に活用し、国際的な視野を持ち地域視点で行動するグローバル人材の育成。
 ③基礎的な学力の定着と21世紀型学力の育成に向けた授業改善と授業力向上。
 ④自らの生き方を主体的に意思決定し行動できる進路指導とキャリア教育の充実。

【今年度の重点目標】

①学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり。
 ②地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザインの具体化支援。
 ③支援係との連携体制の一層の強化。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進。
 ④地域みらい留学を通じた全国募集の促進と地元生確保に向けた、地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化。

◎教育活動に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
教育課程 教育内容	カリキュラムマネジメントに基づき実践する教育内容は、生徒の進路実現に効果的なものであったか。	教育課程委員会	進路状況、資格取得状況等の結果による。	B	新学習指導要領に対応した新教育課程を編成した。本校の特色を生かした教育課程になるよう編成し来年度から実施する。
	選択科目の選択群の構成並びにそれに属する科目の配置及び内容は適切であったか。			B	生徒の進路希望に応じて類型選択をできるようにした。
学習指導と教育課程 各教科	思考力や想像力を伸ばし、他者の考えを理解する能力を育成できたか。自分の考えを適切に表現する能力を育成できたか。ことばに対する関心を高めることができたか。	国語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	習熟度別に講座編成を行い、個々に応じた対応を行った。多くの科目で7割以上の満足度を得た。
	授業編成の工夫や添削指導などを含むさまざまな補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。また、言語能力の育成を意識し、対話(双方向)的な活動を行ったか。	数学科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	クラス編成を生徒の状況に応じて行い個々に応じた対応ができた。7割以上の生徒の満足感を得ることが出来た。
	習熟度別授業や選択授業、また放課後の補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。授業での言語活動を通して、英語への関心を高めることができたか。	英語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 必要に応じて補習を実施できたか。	B	7割以上の満足感達成は科目によって異なった。補習はいろいろな機会を捉えて実施できた。今後は英検の受験者数を増やしていきたい。
	日本と世界の地理・歴史および政治経済に関する基本的事項を理解させ、地域や社会に貢献できる態度を育むための授業実践を行い、適切な振り返りを行ったか。	地歴公民科	地域の課題および地域を題材とした授業を各学年1件以上立案し、実施することができたか。授業アンケートを行い、その結果を次年度授業計画に反映させたか。	A	時事問題では大系線縦線に関する議論、北アルプス学では白馬村の観光資源について取り上げた。引き続き、身近な地域を題材とした授業を行いたい。
	「観光」にかかわる学習活動をさらに拡充させ、より魅力的で、より教育効果の高いものとするための研究をしたか。	地歴公民科	新規に発案した企画、または、改善を加えた企画を2件以上立案し、実施することができたか。	B	高校生ホテル、軽井沢観光ガイド実習、地域の観光資源調べなどの授業実施を通じ、観光について学習探究活動を深めることができた。
	実験・実習の目的、操作の意味を理解させ、実験結果を考察させるなどの学習活動を通して、探究的な学びの土台作りができたか。	理科	各單元ごとに実験実習ができたか	B	各單元で実験・実習を行うことができた。探究する力を身に付けさせるために、生徒自身が問をたて実験方法を考える時間を多くとりたい。
	運動の合理的、計画的実践に主体的に取り組むことができたか。自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を高められたか。	保健体育科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	主体的に取り組もうとする生徒とそうではない生徒の差が大きく、課題を考え改善していかうとする資質や能力を高めるための工夫をしていきたい。
	生徒一人ひとりの技能、技術の伸長を図ることができたか。芸術を愛好し、深く味わおうとする心情を育むことができたか。	芸術科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	活動に制限がある中で、生徒の希望も生かしつつ適切な指導を行うことができた(93.7%)。
	生活者として生きるための知識や技術を身につけ、主体的に人生をつくれるようにワーク・実験・実習を活用した授業展開を工夫し、生徒が主体的に取り組むことができたか。	家庭科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	実習を通じて知識や技術を身につけることができた。実習を多く取り入れた授業は、生徒の満足感が高かった。実験・実習やICTの活用を工夫していきたい。
	商業科目に興味を持たせ、資格取得を通じて、社会で使える知識・技術(スキル)を身につけさせることができたか。	商業科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	基礎的なスキルやビジネスの基礎について身に付けさせるよう努めた。検定試験の合格者が増えるよう今後も取り組みたい。
情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能の習得と情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度を身につけることができたか。	情報科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	情報モラルの内容では、最新の情報を扱うなど心がけた。実習の授業は概ね好評であった。Life is techを使った学習も概ね好評だった。来年度も導入したい。	

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題	
教務	生徒・職員が安心感をもって取り組める環境整備を行うことができたか。	教務係	20件以上の改善提案を行うことができたか。	B	会議資料のデータ化、職員相互の授業見学期間の設定をはじめ10件程度の改善提案を行うことができた。今後は、生徒が直接実感できるような環境整備を行っていききたい。	
	生徒に落ち着いた学習環境や機会を提供し、生徒の学力向上を図ることができたか。		B	授業評価アンケートの結果では、6割以上の生徒が満足感を獲得していた。今後は、それぞれの生徒が自らの習熟度に合わせた演習を行えるようにICTの活用や対話的な授業を推進していきたい。		
	地域やPTAとも連携し、地域や小・中学校などへのPRを活発化させたか。		A	HPなどによる情報発信、教員による中学校訪問・中高連携・小高連携事業を合計して年間15回以上実施できたか。	A	HP「白馬高の日常」記事を年間で20回以上掲載することができた。また、部活や授業単位での中学校や小学校との連携事業を複数回実施することができた。引き続き、HPの更新や交流事業を通じたPR活動を行っていききたい。
生徒指導	基本的な生活態度が確立されたか。	生徒指導係	8割以上の生徒が達成できたか。(服装、あいさつ、マナー)	B	学期に1回規律を高める週間を実施し登校時の服装指導を実施した	
	健全な高校生活を送るために、豊かな人間関係の形成および問題行動の防止ができたか。		B	大半の生徒は落ち着いた学校生活を送ることができているが、数人の生徒の問題行動があり普段から小さな兆候を見逃さないようにしたい。		
	さまざまな機会を通して、交通事故の防止ができたか。		B	各種指導を実施できたか。(交通安全講話、自転車乗車指導等)	B	実技を交えた交通安全教室を実施し交通安全の啓発を行った
	さまざまな機会を通して、盗難の防止ができたか。		B	移動や集会のたびに声かけはできたか。	B	特にイベント時の注意喚起や貴重品の学校内への持ち込みをしないよう呼びかけることができた。
	生徒が安心、安全で学校生活を送ることができたか。		B	地域、保護者、生徒、職員等からの情報を活用できたか。	B	日々生徒個人に寄り添う指導を職員が心がけ、保護者や地域からの情報を活用しながら指導に当たることができた。
進路指導	生徒の志望や適性・学力などを正確に把握し、適切な情報提供を行い、進路決定までていねいに指導することができたか。	進路指導係	指導に対して7割以上の生徒が満足したか。(最終学年生徒へのアンケートによる)	A	担任、係を中心に粘り強く丁寧に指導することができた。アンケートの結果から、3年生の94.6%が進路指導に「満足」「だいたい満足」と答えた。	
	生徒の希望と意欲に応じて、早い段階から進路目標を持たせ、普段の授業に加え模試や補習などを効果的に組み合わせた学習計画に沿って、戦略的な進路指導を行うことができたか。新入試改革を研究し、生徒を適切に指導できたか。		A	指導体制を整え、生徒が目標に向かって学習を進めることができたか。	A	多くの先生方の協力も得ながら、係が中心となって指導体制を構築し、各生徒の進路実現につなげることができた。また、1、2年生も進路意識を持った生徒が増えてきた。
	組織的で系統的な教育活動を展開する中で、生徒の人生観・勤労観を養い、目標を持って意欲的に行動することを促せたか。		A	就業体験、企業見学、職業人講話など、さまざまな学習の機会を与えることができたか。	A	2年ぶりに1年次の就業体験が計画どおり実施することができた。また、職業人講話や企業見学会への参加も行うことができた。
	授業や公営塾との連携によって生徒の学習状況を把握し、学力向上を目指した取り組み(模試や7時限補習など)を推進することができたか。		B	基礎力診断テストでDゾーンを減らし、Cゾーン以上を増やすことができたか。	B	2か月に1回公営塾との連絡会を持ち、指導に活かした。模試・補習を活用した生徒も増えた。
朝学習や三者面談時の補習を通して、基礎学力の向上が図れたか。	B	1・2学年では、朝ドリルに熱心に取り組む、3学年では新聞記事を読んで意見をまとめるなど学習習慣の定着が見られたが、SHRでの時間でもあり、時間の確保が難しかった。	B			
生徒会	生徒が達成感を体験し、自信をつけるため、さまざまな場面で生徒に活躍の場を提供できたか。	生徒会係	7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)	B	生徒アンケートを実施し、委員会活動を活発に行えるように、生徒自ら働きかけを行っている。	
	生徒会の将来を考え、組織や活動方法の見直しを行い、必要に応じて改善できたか。		B	必要に応じて活動を見直し、生徒会の組織のあり方について、生徒が主体的に議論する場面が見られた。		
	早い時点から、生徒主体で計画の立案を行い、充実した内容の文化祭を実施できたか。		B	7割以上の生徒が満足できたか。(アンケート実施)	B	9割以上の生徒が充実していた。まあまあ充実していたと回答。コロナ対策について課題が残った。
	さまざまな機会を通して、生徒会活動に参加させることができたか。		B	7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)	B	生徒アンケートを作成し、今後の白馬高校全体を生徒同士討論できる機会を作成している。
ボランティアや国際交流などの公共的な面にも目を向けさせることができたか。	B	活動実績の点検。	B	ボランティア以外にも様々な活動に目を向け行動している。		

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
保健・環境	健康	保健環境係	アンケートを実施し、その評価による。	B	コロナウイルス感染症がある状態が生活の一部となっており、感染予防に心がけるといった面からは健康について意識できている生徒が多い。
	環境			B	定期的に校内の安全点検が実施できた。冬場の雪や氷へ対しての安全対策を今後重点的に行っていきたい。
				B	教員アンケートによると、およそ7割の生徒が清掃によく取り組んでいる。生徒の前向きな取り組みを認める機会や時間いっぱい取り組めるような工夫を考えたい。
生徒相談	特別支援教育	特別支援教育委員会	生徒や保護者の意向を踏まえ、スクールカウンセラー事業重点派遣校の96時間を効果的に活用し、支援できたか。個々の生徒に合った支援体制の実施と必要な見直しが行えたか。教職員対象の研修会を年1回以上行ったか。	B	必要に応じたカウンセリングや、専門機関と連携した支援会議を行い、生徒支援を行うことができた。全校生徒にアセスを実施し、生徒支援の参考にした。職員研修会を2回実施し、生徒対応についての理解を深めた。
1学年	学習面	1学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	8割以上の生徒が意欲的に授業に取り組んでいると回答した。一方で家庭学習の時間が短いことが課題である。また、遅刻が多い生徒もいるため、引き続き生活習慣を身につけさせる指導を行う。
	進路指導			B	長野県内の上級学校の見学や、大北地域の企業での就労体験を行い、進路選択について考える機会を設けた。
	総合学習 北アルプス学			B	白馬を楽しむ日やKDDIとの連携授業などを通して、地域の環境や歴史、産業について学ぶことができた。課題意識を持つまでには至らなかった。
2学年	学習面	2学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	8割以上の生徒が朝学習によく取り組んでいた。基礎学力の補充には役立ったが、入試に対応できる力をつけるまでには至らなかった。
	進路指導			B	半数の生徒は進路目標が定まった。今後も進路関係の行事等を活用して残りの半数の生徒が目標を定められるように取り組みたい。
	総合学習 白馬学			A	9割の生徒が修学旅行に満足していた。実施後に行った発表会でもそれぞれの体験が充実したものであることがうかがえた。
3学年	学習面	3学年	アンケートを実施し、その評価による。	A	アンケートによると、自分の進路決定に満足している生徒が90%いる。学習の成果を進路希望実現につなげることができた。
	進路指導			A	第一志望届をつくり、早くから志望校を意識させることができた。担任や副担任による個別指導を重ね、9割以上の生徒が自分の進路実現に満足している。
	総合学習 白馬学			B	資格取得に挑戦したものの取得することが困難だった生徒もいる。一方、進路希望実現に向けて個別面談を充実させることができた。

◎学校運営に関するもの

評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題	
連携	地域・保護者との連携	レポートチャンネルやHPを通して、学校の活動の様子や情報を地域に向けて積極的かつ効果的に発信し、その結果保護者や地域の方の学校への理解が深まったか。	教務係	レポートチャンネルを年12回発行し、7割以上の保護者が本校の情報発信に対して満足感を得られたか。(アンケート結果)	A	レポートチャンネルについては、令和5年1月現在、10回発行しており、白馬村の広報誌およびHPへの掲載を行った。一方、学校の様子をHPで公開しているが、保護者の認知度が低いため、来年度は周知を図りたい。
		白馬・小谷両村の小中学校、行政・企業や地域との連携を深めることができたか。	教務係	教員による中学校訪問、中高連携・小高連携事業を年間5回以上実施できたか。	A	環境選択生徒と中学生との交流、数学活用選択生徒と小学生との交流、吹奏楽部やPBL部の中学生との交流、年間5回以上の交流事業を行うことができた。引き続き、地域と連携した交流事業を行ってきたい。
		P T A行事などを通して、保護者の方との意見交換を充分に行うことができたか。	教務係(P T A担当)	7割以上の保護者が満足感を得られたか。(アンケート結果)	A	学校評価アンケートでは、8割以上の保護者が満足感を得ていた。また、数年ぶりにPTA研修旅行を実施することができ、多くの参加者から好評を得た。引き続き、行事を通じた保護者との交流を行ってきたい。
		オンラインによる異文化交流や海外留学等への参加を通じて国際感覚を身に付けることができたか。	国際交流委員会	8割以上の生徒および参加者が満足感を得られたか。(アンケート実施)	B	台湾とのオンライン交流は1学期と2学期それぞれ1回ずつ行うことができた。2学期はタイの生徒と対面で交流し、お互いの文化紹介をすることができた。また、1名の生徒が次年度からの長期留学を希望し、準備を進めている。次年度も生徒の異文化理解が促進される活動に取り組みたい。
		学校行事にて、保護者・地域の方との交流を図ることができたか。	教務係(P T A担当)	各行事の参加状況が前年度を上回ったか。	B	しろまつ祭、強歩大会は、保護者によるPTA展、ふるまいの提供は、地域の方々の協力もあり大変好評だった。引き続き、行事を通じた保護者・地域の方との交流を行ってきたい。
管理運営	安全・安心な学校づくり	生徒がいじめや体罰を受けることなく、安全で安心な学校生活を送ることができたか。	コンプライアンス委員会	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止のための指針に基づき、教職員が研修を深め、さまざまな機会を通して生徒への啓発指導を行い、いじめ事案の発生を予防することができたか。 非違行為に係る職員研修を通じて、体罰事案の発生を予防することができたか。 アンケート調査等を通じて、生徒の現況を適切に把握することができたか。 いじめ・体罰事案が生じた場合に適切な対応をとることができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校長講話、職員研修、動画研修を通して、コンプライアンスや人権意識について理解を深めた。 個別面談、学校生活アンケート、アセスの結果等から生徒現況の把握に努めた。 生徒間のトラブルについては、担任、学年、生徒指導係、特支コーディネーターが連携して必要な対応をとることができた。
		校内研修を定期的に行い、職員全体の意思疎通と共通認識を醸成するように努めたか。	教務係	生徒指導(人権教育)はもとより、法令・社会規範・倫理を遵守するよう複数回の研修実施、および職員の7割以上が研修に満足度を得られたか。	B	コンプライアンスに関わる研修の他にも、生徒対応や情報機器に関する研修を複数回実施でき、概ね満足感を得られた。引き続き、校内研修を通じた職員全体の意思疎通を図ってきたい。
		公開授業をお互いの授業を研究する機会と捉えて、積極的に研修できたか。	教務係	授業力向上のために職員間で互いの授業を自由に見学できる期間を設け、各職員年間3回以上の授業見学ができたか。	C	年間の授業見学を3回以上行った職員の割合は3割にとどまった。今後は、授業見学期間の見直しを行うことで授業見学の機会を増やしてきたい。